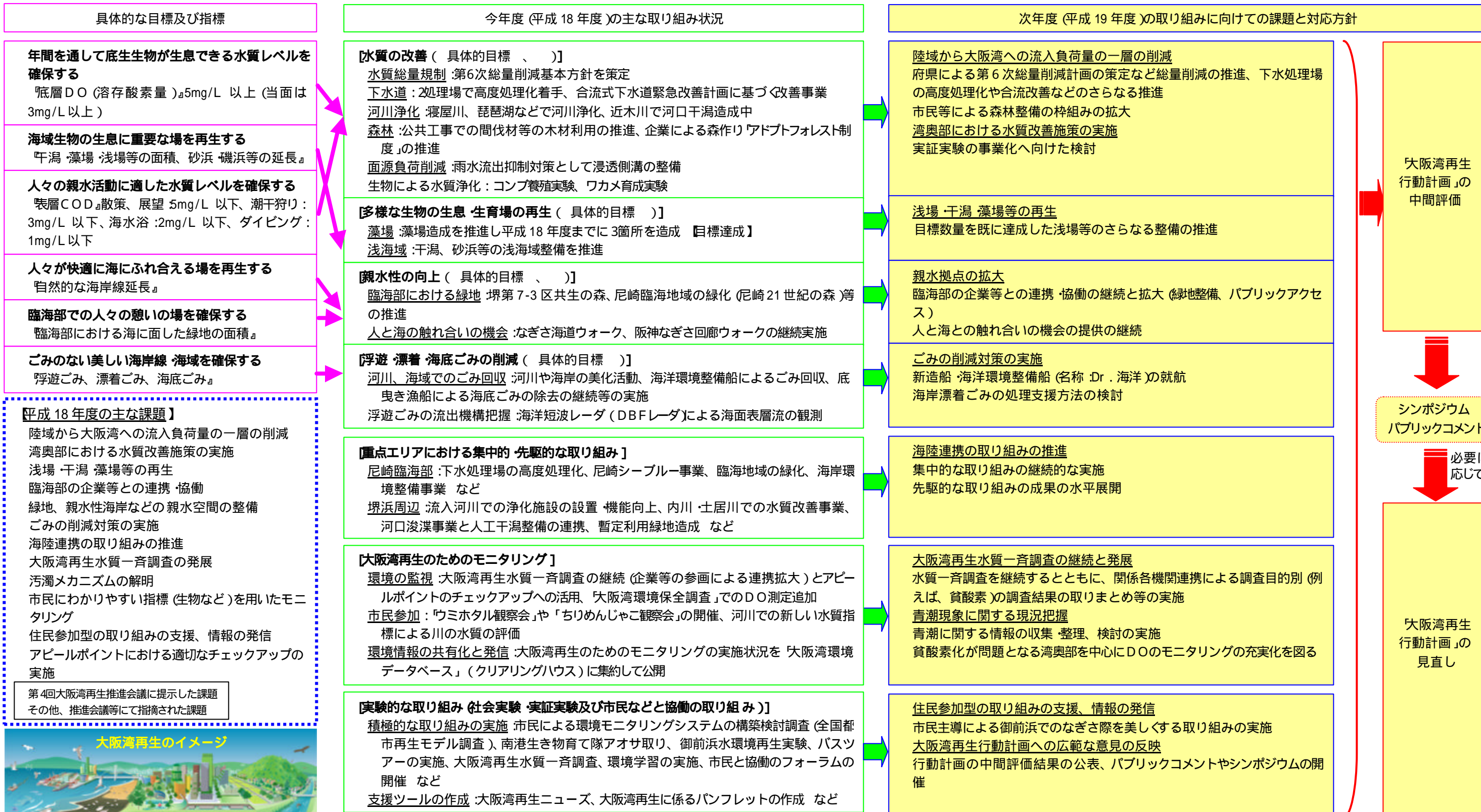




平成 19 年度に向けての課題と対応方針【案】

【目標】 森・川・海のネットワークを通じて、美しく親しみやすい豊かな「魚庭(なにわ)の海」を回復し、京阪神都市圏として市民が誇りうる「大阪湾」を創出する。



大阪湾再生行動計画の中間評価

シンポジウム
パブリックコメント

必要に応じて
大阪湾再生行動計画の見直し

大阪湾再生行動計画 平成 18 年度に向けての課題と対応方針 (案)・・・第 4回推進会議資料 (参考資料 2)を再掲



目標】 森・川・海のネットワークを通じて、美しく親しみやすい豊かな「魚庭 (なにわ)の海」を回復し、京阪神都市圏として市民が誇りうる「大阪湾」を創出する。

具体的な目標及び指標	今年度 (平成 17 年度) の主な取り組み状況	次年度 (平成 18 年度) の取り組みに向けての課題と対応方針
<p>年間を通して底生生物が生息できる水質レベルを確保する 底層 DO (溶存酸素量) 5mg/L 以上 (当面は 3mg/L 以上)</p>	<p>【水質の改善 (具体的目標 、)】 水質総量規制：在り方」答申を踏まえ、総量削減基本方針等の策定に着手 下水道：1処理場の新設・供用開始、1 処理場で高度処理施設供用開始・2処理場で高度処理化着手、合流式下水道緊急改善計画に基づく改善事業実施 農業集落排水、浄化槽：各府県市等の整備構想に基づく整備 河川浄化：寝屋川、琵琶湖などで河川浄化、大和川で河川浄化施設の設置・機能向上 森林：森づくりへの企業参加促進のため「アドプトフォレスト制度」導入 生物による水質浄化：コンブ養殖実験、ワカメ育成実験</p>	<p>陸域から大阪湾への流入負荷量の一層の削減 第 6 次水質総量規制との連携、下水処理場の高度処理化や合流改善などのさらなる推進 企業、市民との連携による森林整備、国産木材利用の促進 湾奥部における水質改善施策の実施 海域での水質改善：水質浄化実験等の積極的な実施 港湾計画改訂に際して新たに位置付けられた「大阪湾再生」に関する計画の事業化の検討 (防波堤の再配置による海水交換促進 (阪南港) 等)</p>
<p>海域生物の生息に重要な場を再生する 干潟・藻場・浅場等の面積、砂浜・磯浜等の延長」</p>	<p>【多様な生物の生息・生育場の再生 (具体的目標)】 浅場：神戸空港の人工ラグーン (水面部 2ha) の整備完了、御前浜での実証実験施設としての浅場整備</p>	<p>浅場・干潟・藻場等の再生 港湾計画に新たに位置付けられた「大阪湾再生」に関する計画の事業化の検討 (干潟、浅場等)</p>
<p>人々の親水活動に適した水質レベルを確保する 表層 COD 散策、展望 5mg/L 以下、潮干狩り：3mg/L 以下、海水浴 2mg/L 以下、ダイビング：1mg/L 以下</p>	<p>【親水性の向上 (具体的目標 、)】 臨海部における緑地：堺第 7-3 区共生の森事業の現地着手 (堺浜での堺北エリア開発整備協議会による企業との連携) 人と海の触れ合いの機会：なぎさ海道ウォーク、阪神なぎさ回廊ウォークの継続</p>	<p>臨海部の企業等との連携・協働 臨海部の企業等との連携・協働 (主にパブリックアクセス等) 港湾計画に新たに位置付けられた「大阪湾再生」に関する計画の事業化の検討 (緩傾斜護岸、港湾緑地等)</p>
<p>人々が快適に海にふれ合える場を再生する 「自然的な海岸線延長」</p>	<p>【浮遊・漂着・海底ごみの削減 (具体的目標)】 河川、海域でのごみ回収：河川や海岸の美化活動、海洋環境整備船によるごみ回収、底曳き漁船による海底ごみの除去の継続、大阪湾クリーン作戦等での街頭キャンペーン等の実施 浮遊ごみの流出機構把握：海洋短波レーダ (DBFレーダ) の設置</p>	<p>ごみの削減対策の実施 市民への啓発・普及 (成ヶ島等の自然海岸への大量のごみ漂着等の問題) クリーン活動における陸・海連携による大阪湾全域での効果的な情報発信を展開 浮遊ごみ流出機構の把握と効率的な回収の実施</p>
<p>臨海部での人々の憩いの場を確保する 臨海部における海に面した緑地の面積」</p>	<p>【重点エリアにおける集中的・先駆的な取り組み】 尼崎臨海部：下水処理場の高度処理化、海域環境再生モデル事業、臨海地域の緑化、海岸環境整備事業 など 堺浜：流入河川での浄化施設の設置・機能向上、河口浚渫事業と人工干潟整備の連携、親水緑地整備事業、暫定利用緑地造成 など</p>	<p>海陸連携の取り組みの推進 背後の陸域から海域までの集中的・先駆的な取り組みを効率良く展開 堺浜・新たな機関 (堺市) の参画による集中的・先駆的な取り組みの推進</p>
<p>ごみのない美しい海岸線・海域を確保する 「浮遊ごみ、漂着ごみ、海底ごみ」</p>	<p>【大阪湾再生のためのモニタリング】 環境の監視：大阪湾再生水質一斉調査の継続 (企業等の参画による連携拡大) とアピールポイントのチェックアップへの活用、地球観測衛星画像の公開 行動計画の効果の検証：ボランティアダイバーと連携した都市型ダイビングスポットでのアマモ植生社会実験、地元小学校等と連携した「コンブの森づくり」 市民参加：専門学校生と連携したスナメリの育成調査、釣り人による環境モニタリングシステムの構築 (検討)、水質一斉調査市民参画マップ (WEB) の活用による市民との情報の共有化、河川での生物指標調査の実施 (わかりやすい水質指標の試行) 汚濁メカニズムの解明：北部港湾域の水質・底質調査</p>	<p>大阪湾再生水質一斉調査の発展 大阪湾再生水質一斉調査 (主に湾奥部の水質の実態把握を主眼) の継続実施、企業等を含む参加主体の拡大 汚濁メカニズムの解明 北部港湾域を中心とした汚濁機構の解明 市民にわかりやすい指標 (生物など) を用いたモニタリング 市民にわかりやすい指標の選定、海辺の国勢調査など生物面でのモニタリングの早期の実施、環境学習の結果の活用など市民との連携の実現</p>
<p>【平成 17 年度の主な課題】 陸域から大阪湾への流入負荷量の継続的な削減 湾奥部における水質改善施策の実施 干潟・藻場等の再生 臨海部の企業等との連携・協働 ごみの発生源対策の実施 大阪湾再生水質一斉調査の発展 汚濁メカニズムの解明 それぞれのアピールポイントでのモニタリング 市民にわかりやすい指標を用いたモニタリング 市民などと協働の取り組みの展開 新たな機関の参画による推進体制の強化 施策の選択と集中 (総合的な取り組み) 陸域と海域の連携 (事業レベルでの連携) 市民・住民・NPO等との連携と協働 (環境教育の観点) わかりやすい指標づくり</p>	<p>【実験的な取り組み (社会実験・実証実験及び市民などと協働の取り組み)】 積極的な取り組みの実施：大阪湾ダイビングスポット創設プロジェクト (全国都市再生モデル調査)、ミニ人工干潟による生物生息空間調査、コンブの森づくり、大阪湾再生水質一斉調査、市民と協働のフォーラムの開催 など 支援ツールの作成：シンボルマークの作成・公開、シンボルマーク入り携帯ストラップ・クリアファイルの配布 など</p>	<p>住民参加型の取り組みの支援、情報の発信 市民主導による展開されている環境教育、市民セミナー、環境再生等への更なる展開へ向けたサポートを推進 クリーン活動における陸・海連携による大阪湾全域での効果的な情報発信を展開 大阪湾再生ニュース (仮称)・大阪湾再生に係るパンフレット等の作成等による集水域の住民・企業への積極的な情報発信</p>

第 3 回大阪湾再生推進会議に提示した課題
その他、推進会議等にて指摘された課題



大阪湾再生のイメージ